

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書

IAU Symposium 242 Astrophysical Masers and Their Environments

渡航先—オーストラリア
期 間—2007年3月10日-18日

私は、オーストラリアのアリス・スプリングスで開催された、IAU Symposium 242に参加しました。宇宙メーザーの国際研究会としては、1992年のアメリカ、2001年のブラジルに次いで3回目になりますが、私は今回が初参加です。

アリス・スプリングスは、オーストラリア大陸のほぼ中央に位置する町です。エアーズ・ロックにも比較的近く、頑張れば、アリスから日帰りでも観光することもできます（私は行きませんでした）。日本時間+30分と、時差がほとんどないのは有難いのですが、南半球なので当然季節は正反対。まだ肌寒い日本を飛び立ち、アリスの空港に降り立つと、目眩がしそうなくらいに強烈な日差しが待ち構えていました……。 (暑さのため現地で体調を崩し、他の日本人参加者の皆様に、多大なるご迷惑をお掛けしてしまいました。申しわけございません。)

今回私は、“Water-Vapor Maser Disk at the Nucleus of the Seyfert 2 IC 2560”というタイトルでポスター発表しました。銀河 IC 2560 の AGN (Active Galactic Nuclei, 活動銀河核) から放射されている水メーザーを VLBI (Very Long Baseline Interferometry, 超長基線電波干渉計) 観測した結果から、中心ブラックホール周辺の円盤モデルを提案する内容で、これは私の博士論文の一部でもあります。二日目のポスターセッションの時間、私のポスターを見て下さっている方を発見して声を掛けるところ、名札に Jabez Braatz の文字が。修士の頃から論文を通して名前を知っている相手との突然の対面に、うわ、Braatz さんだよ！ と舞い上がりつつ、拙い英語で何とか説明を果たしました。

さて、研究会自体は初日のメーザー理論から始まり、系内天体から系外天体まで、種類も水・

OH・SiO・メタノール等々、最終日にはサブミリメーザーや新たな観測装置の話まで、メーザーに関するすべてを扱っています。全体的な印象としては、「メタノールメーザー大流行」、「Green Bank 100 m 望遠鏡の威力は絶大」という感想をもちました。AGN 水メーザーを研究対象とする私としては、一番楽しみだったのが四日目、“Masers in AGN environments”のセッションです。やはり修士の頃から名前を知っている Lincoln Greenhill 氏の口頭発表中に、自分の論文が引用されて喜んだのも束の間、終了直前に IC 2560 水メーザーの非常に美しい VLBI 観測結果を見せられ、大ショック。しかし、観測時期の違いからか、彼らの結果とわれわれの結果には差があるようです。私にとって Greenhill 氏は雲の上の存在でしたが、最終日、勇気を振り絞って質問しました。Greenhill 氏も私のポスターをご覧になっていて、ポスターの前に移動し、いろいろと議論することができました。

その日の夕食。どういうわけか、Braatz 氏と、またしても雲の上の存在の Christian Henkel 氏と同席することになりました。しかも Braatz 氏の席は私の隣。Braatz 氏のポスターの内容で質問したかったことも質問でき、今回の研究会で心残りは何もない、といった感じです。出発前は（主に自分の英語力の面で）不安もありましたが、本当に参加して良かったです。

最後になりましたが、共同研究者の中井直正氏（筑波大学）・石原裕子氏（郡山市ふれあい科学館）・Philip Diamond 氏 (Jodrell Bank Observatory, UK) ・佐藤奈穂子氏 (和歌山大学)、現地でお世話になった多くの方々、そして本渡航に援助してくださいました早川幸男基金ならびに関係者の皆様に篤く御礼申し上げます。

山内 彩 (筑波大学数理物質科学準研究員)